

第 73 回全国植樹祭岩手県実行委員会 設立趣旨

岩手県の森林は、県の木である南部アカマツをはじめスギやカラマツ等の針葉樹のほか、木炭やしいたけ原木にも利用されるナラ等の広葉樹といった多様な樹種で構成されているのが大きな特徴です。

また、森林からの清らかな流れは、生活用水や田畑を潤す農業用水に活用され、森の養分が川を流れて海に注ぐことで、豊かな漁場を育んでいます。

現在、その森林が戦後造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎え、県内では集成材工場及び合板工場、製紙工場や木質バイオマス発電施設等で需要量が増加するなど、森林・林業をめぐる情勢は大きな転換期を迎え、「伐る、使う、植える、育てる」といった森林資源の循環利用を進め、適切な森林整備を通じて地球温暖化の防止及び循環型社会の形成に寄与することが重要となっています。

こうした中で、令和 4 年春に「第 73 回全国植樹祭」を本県で開催することは、極めて意義深いものとなります。

第 73 回全国植樹祭を通じて、本県の豊かな森林を次の世代に引き継ぐ契機とするとともに、平成 23 年 3 月の東日本大震災津波で大きな被害を受けた本県にとって、国内外からの支援に対する感謝の気持ちとともに、震災から復興する姿を伝える絶好の機会になるものと考えており、この植樹祭の成功に向け、幅広い関係機関、関係団体の参画のもと、「第 73 回全国植樹祭岩手県実行委員会」を設立します。

令和元年 8 月 8 日